

家庭科×福祉科 クロスカリキュラムとして

高齢者疑似体験学習を行いました



9月16日IAFと2iAの家庭基礎【超高齢社会を共に生きる】の授業時に福祉科とクロスカリキュラムとして高齢者疑似体験学習を行いました。生徒たちは疑似体験装具（ヘッドホンや手足の重りなど）を装着し、日常の動作を擬似的に体験しました。



校内の移動や階段の上り下りなどの動作を通じて、加齢による身体的な変化を実感し、高齢者の気持ちを学びました。また、高齢者役と介助者役を交替で行うことでのお互いの立場を理解することができました。



この体験を通して、生徒たちは高齢者の身体的特徴を理解するとともに、より思いやりのある関わり方について考える機会となりました。体験後は、ICTを活用した振り返り学習を行いました。介護制度についての解説動画を視聴し、高齢者を支える社会の仕組みについて理解を深めました。さらに、ICTを活用したクイズ形式の学習を取り入れ、学んだ内容を確認しながら理解を定着させました。また、買い物場面を想定したロールプレイ活動を行い、高齢者に配慮した声かけや接し方について実践的に学びました。体験とICTを組み合わせた学習を通して、生徒たちは高齢者との関わりを自分事として捉え、日常生活に生かそうとする姿が見られました。

